



令和4年

# 新年あいさつ



九重町長  
日野 康志

明けましておめでとうございます。町民の皆様におかれましては、お健やかな新春をお迎えのこととお慶び申し上げます。

旧年中は、町政推進に對しまして温かいご支援とご協力を賜り、心より感謝申し上げます。

年頭にあたり、一言ご挨拶を申し上げます。

さて、昨年を振り返りますと、新型コロナウイルスへの対応に終始した一年ではなかったかと思えます。新型コロナウイルス感染症の拡大は止まるところを知らず、その影響により町民の生活をはじめ地域経済は、前年に引き続き大きな打撃を受けました。そのような中、町民の皆様が新型コロナウイルス感染症から、普段の生活を取り戻せるように、ワクチンの接種体制の迅速な確立や地域経済への継続的な支援に取り組んでまいりました。

ワクチン接種では、玖珠郡医師会の皆様や看護師、関係者の皆様、そして住民の皆様のご協力をいただき、希望者への新型コロナウイルスワクチンの集団接種を5月より開始し、9月には無事終えることができました。

ました。

また、地域経済対策として、商品券発行事業を行いつつ事業継続支援金事業等により、コロナ禍で特に影響を受けている中小企業・小規模事業者の事業継続への支援にも取り組んできましたが、まだまだ、苦しい状況であると言わざるを得ません。

昨年も、このように厳しい一年ではありましたが、一方で嬉しい出来事もありました。

一昨年の令和2年7月豪雨の災害は、未だに町内に大きな爪痕を残しています。復旧に3年は掛かるだろうと思われるJR久大本線が、想像をはるかに超える8カ月という短期間で復旧され、3月には全線再開となりました。

また、新型コロナウイルス感染症の世界的拡大により延期されていた「東京2020オリンピック・パラリンピック」は、史上初めての無観客とはなりませんが開催され、このコロナ禍において、世界中に感動と勇気を与えてくれました。そして、同じく延期となりました、『第5回「山の日」記念全国大会おおいた2021』が本町をメイン会場として8月に開催され、九重の雄大な自然と魅力を全国の皆様感じていただくことができました。このことは、ウイズコロナ、アフターコロナへ向けた一歩になったものと感じています。

その他にも、2006年にオープンした九重「夢」大吊橋が15周年を迎え、11月には、来場者数1200万人を達成するなど、今後の観光復興へ繋がる出来事

であったと捉えています。

さて、本年は、本町の今後のまちづくりに向けた基本的な理念や将来像を描く「第5次総合計画」の始動の年となります。現在、計画策定の最終段階に入っておりますが、本計画には町民の皆様からの貴重なご意見はもとより、10年後を担う若い世代からの意見を取り入れるために、九重町の将来像について、このえ緑陽中学校の生徒の皆さんからも意見を募集しました。「2040年問題」をはじめ、急速なスピードで変化・進展していく社会への対応等、取り組まなければならない様々な問題・課題があります。また、新型コロナウイルス感染症は、オミクロン株の感染拡大が顕著となっており、一方、ワクチン接種や治療薬の開発により、観光客の客足が少しずつではあるものの戻るなど、希望の光が見え始めています。

まずは、令和2年7月豪雨災害からの復旧を着実に進めつつ、3回目の新型コロナウイルスワクチンの集団接種を迅速に行うとともに、ウイズコロナ・アフターコロナを見据え、農林業、観光業の復興に向け取り組んでまいります。

町民皆様の想いを形にし、未来へとつながる、持続可能な町の創造に向けた「まちづくり・地域づくり」を全力で進めてまいりますので、皆様方のご支援・ご協力をよろしくお願い申し上げます。本年が皆様にとりまして、実り多き輝かしい一年となりますようご祈念申し上げます。新年のごあいさつといたします。